

外国雑誌センター館活動評価(2007年度版)

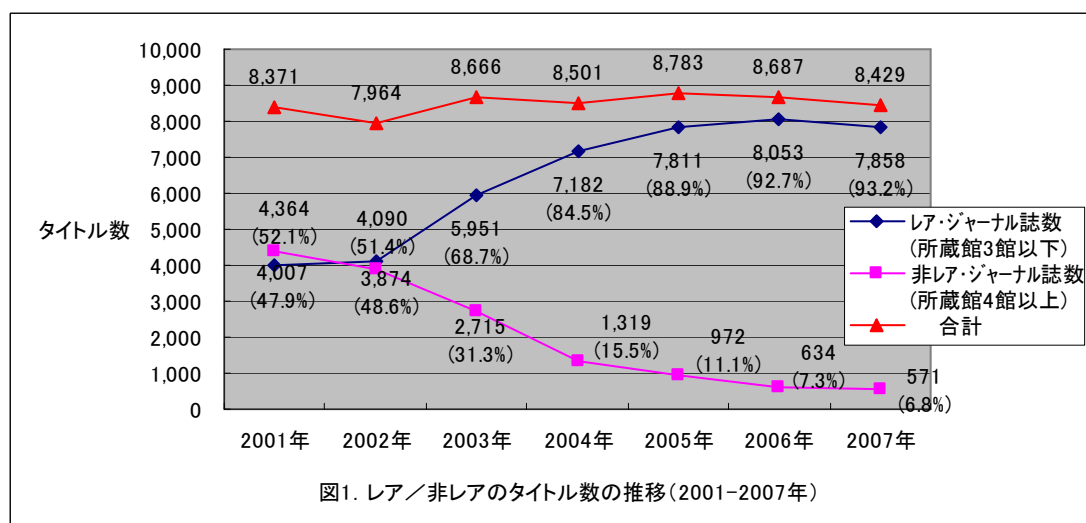
外国雑誌センター館活動評価(2007年度版)では、外国雑誌センター館(以下「センター館」という。)の活動について、「レア・ジャーナル」の収集」と「文献複写サービスの提供」を中心に分析・評価を行った。分析・評価にあたっては各館(9館)のデータを集計し、センター館全体の過去7年間の推移を基に分析を行っている。

「文献複写サービスの提供」ではNACSIS-ILL複写サービス(以下「ILLシステム」という)の一般的な利用動向と、センター館の複写サービスの傾向を述べる。

なお、各館のILLシステム経由の複写サービスデータは、国立情報学研究所(以下「NII」という。)の協力により毎年提供を受けており、各年4月現在のものである。その他のILLシステム関係のデータは、NIIがホームページで公開しているNACSIS-ILL統計情報に依っている。

1. レア・ジャーナルの収集について

センター館全収集誌におけるレア・ジャーナルの占める割合は、2001年以降増加を続け、2007年では93.2%となった(図1)。2001年以降の新規購入レア・ジャーナルの累計は5,681誌に上る。



一方で、センター館における非レア・ジャーナルの整理が一段落した2005年以降も、毎年、前年所蔵数比15%以上の非レア・ジャーナルを購入中止している。また、レア・ジャーナルについても、利用状況を見ながら、毎年5%以上のタイトルを中止している(表1)。これは、各館とも毎年継続して購入タイトルの検討・入れ替えを行っていることによる。

なお、外国雑誌の契約手続きは年単位であり、所蔵館増加による購入中止の検討から実際の中止までに複数年が必要となるため、今後も非レア・ジャーナルの全てを中止することは難しいと思われる。

¹ 「レア・ジャーナル」とは、収集が困難あるいは国内の継続所蔵館数が3館以下の外国雑誌とする。

表 1. 中止タイトル数の推移(2002-2008年)

所蔵館数	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	累計
3館以下	90	172	148	166	465	433	581	2,055
4館以上	643	1,220	1,450	446	177	109	135	4,180
合計	733	1,392	1,598	612	642	542	716	6,235

以上の結果から、センター館は、国内未収集の外国雑誌の収集・整理という本来の役割を果たしていると考えられる。しかし、今後ともこの状況を維持するためには、定期的なタイトルの見直しなど、各館の継続した努力が必要である。

2. 文献複写サービスの提供

(1) ILLシステム経由複写サービスの全般的な利用動向

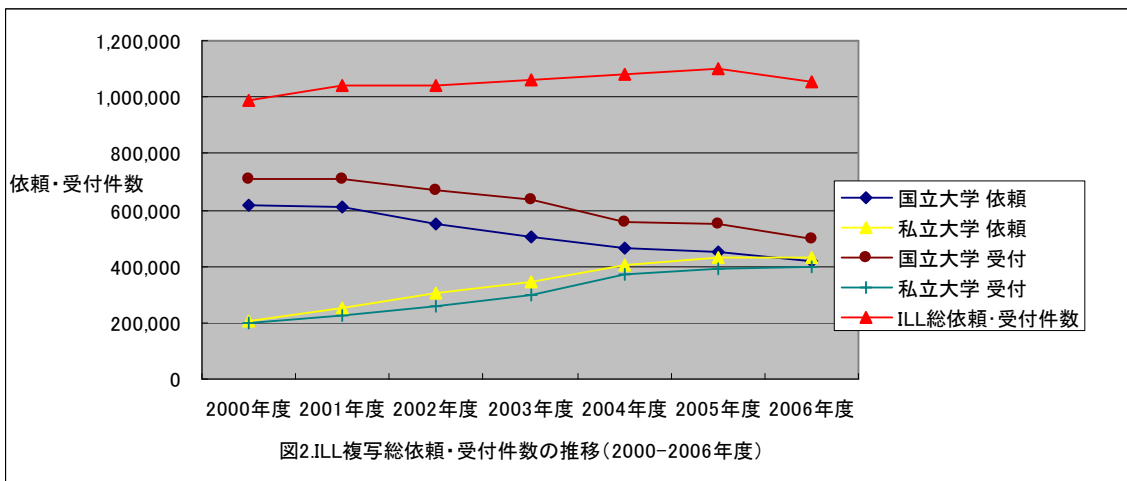
NII ホームページの「NACSIS-ILL 統計情報」によると、NACSIS-ILL 複写サービス全般の利用については以下のような動きが見られた。

① ILLシステム参加機関・参加組織数

2006年度、ILLシステム参加機関数は、国立大学は87校(全国立大学の100%)、公立大学84校(全公立大学の94.4%)*、私立大学525校(全私立大学の92.4%)*、短大高専その他353機関である。また、直接のサービス単位である参加組織総数は1,514となり、国公立大学とも毎年増加しており、2004年度のILL料金相殺制度開始以降は私立大学の増加率が伸びている。大学以外の機関の参加も増加している。(*:設置母数は文部科学省の学校基本調査による)

② ILLシステム経由の依頼・受付件数について

2006年度には初めて、複写総依頼・受付件数は減少に転じた。² また、2006年度に依頼件数では私立大学が国立大学を上回ったが、受付件数では国立大学が上回っている。(図2)



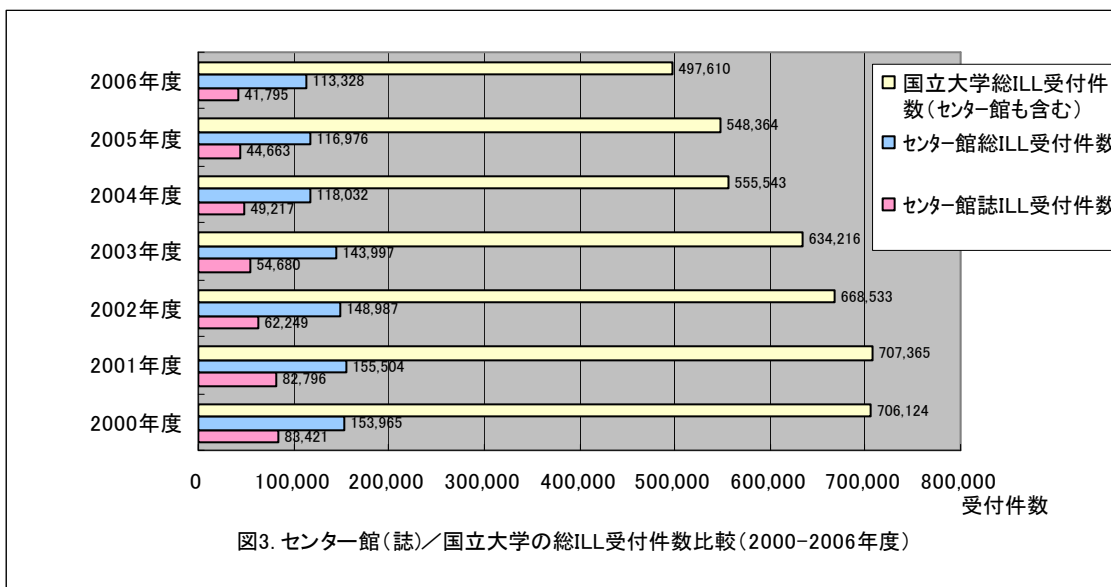
(2) 文献複写サービスにおけるセンター館の機能

① ILLシステム経由の受付件数について

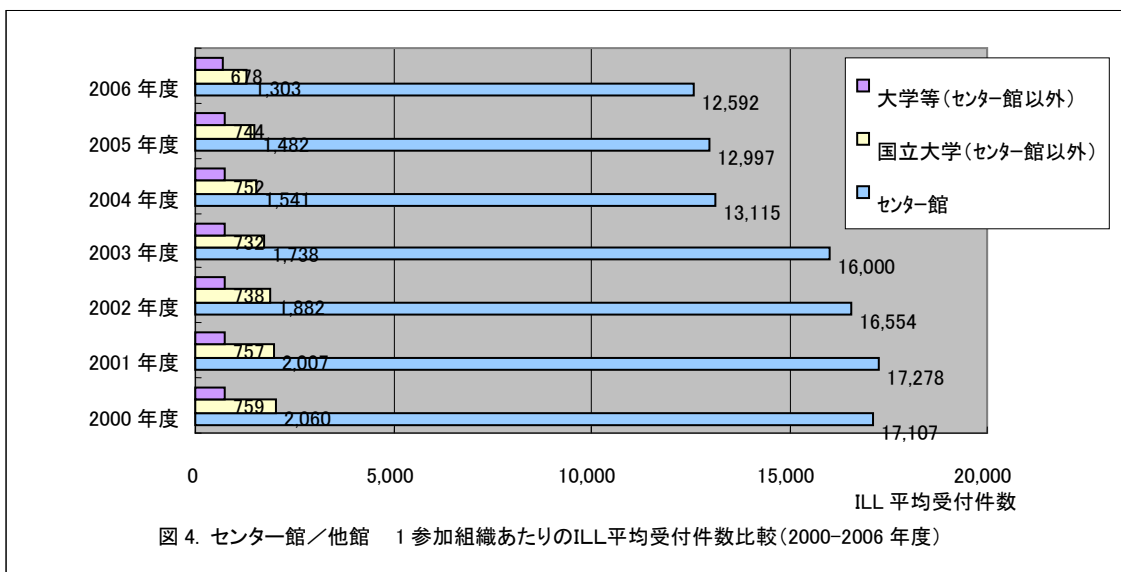
センター館のILLシステム経由受付件数は国立大学総受付件数と同様に減少しているが、国立

² 依頼件数には謝絶件数を含めていないため、総依頼件数と総受付件数は等しい。

大学総受付件数におけるセンター館受付件数の割合は、2000年度以降常に20%以上であり、2006年度は23%である。(図3)



また、過去7年間のILLシステム経由の複写受付件数を、大学等(センター館以外の国公立大、短大、高専、大学共同利用機関)、国立大学(センター館以外)及びセンター館の3者で比較した場合、1参加組織あたりの平均受付件数に大きな開きが見られる。センター館複写受付件数は、他の国立大学の約9倍となっている。(図4)

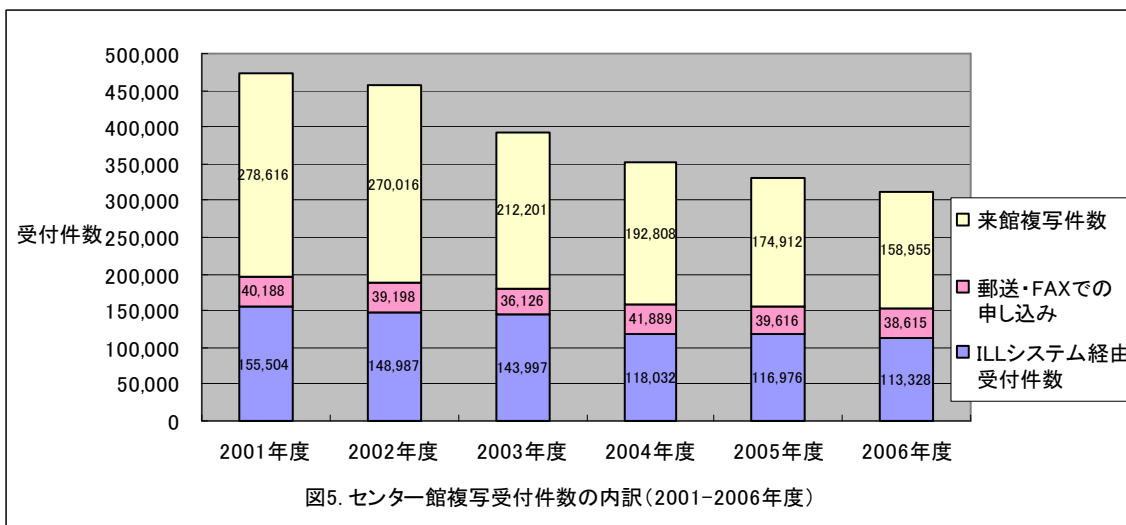


以上の結果から、9館から構成されるセンター館は、大学機関等におけるILL複写サービスにおいて中核的な役割を担っていることが裏付けられる。

②ILLシステム経由以外の受付について

ILLシステム経由以外の方法(郵送、FAX、来館利用)によるものは、毎年、センター館総受付件数の60%を超えている。(図5) また、大学以外のNACSIS-ILL参加機関が毎年増加しているにもかかわらず、郵送・FAXによる受付件数は減少しているが、その割合は2006年度で12.4%と2001年度の8.5%から上昇している。

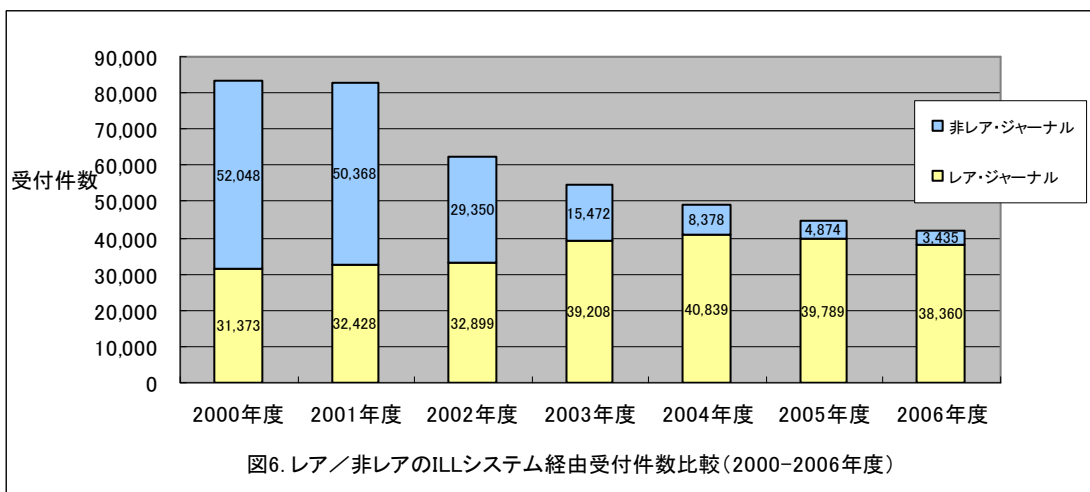
これは、センター館のサービスが、大学等以外の研究者など広範囲にわたって提供されているためである。



③ILL システム経由複写サービスにおけるレア・ジャーナルの存在

センター館における ILL システム経由受付件数減少にともない、レア・ジャーナルについても2004年度以降は受付件数が若干減少している。

しかし、センター館収集誌の ILL システム経由受付件数に占める、レア・ジャーナルの比率は、この7年間で37.6%(31,373件)から91.8%(38,360件)へと上昇し、センター館本来の役割であるレア・ジャーナルの提供が、サービスの中核となっていることが分かる。(図6)



以上の結果から、センター館ではレア・ジャーナル中心の資料収集と多様な利用者への文献複写サービスの提供により、その機能を十分に果たしている。

3. 今後のセンター館サービスについて

現在、センター館はレア・ジャーナルの収集・提供において一定の成果を収めていると考えられるが、電子ジャーナルへの対応や高額雑誌の持続的購入など、学術雑誌を取り巻く環境の変化に応じた収集資料の検討を行い、利用されるレア・ジャーナルの収集・提供へ向けて今後も努力する必要がある。